

「半農半X」講演会の記録

開催日時：2016年2月14日（日）13：30～16：30（懇親会17：30～21：30頃）

会場：龍ヶ崎市馴染コミュニティセンター・多目的ホール

（茨城県龍ヶ崎市馴染 21-1）

参加人数 67名（講師を含む） ワークショップの参加者 40名余り

アンケートの回答数 37

※講演会アンケート及びアンケートの回答をまとめたものは別紙。

■開催の目的

講演会とワークショップを通して、龍ヶ崎スタイルグリーン・ツーリズムの1つの特徴として掲げている、半農半Xというライフスタイルのイメージを地域の方々に理解していただく、自分のやりたいこと（ミッション）および地域の資源に関心を持っていただく。

■講演会及びワークショップ・懇親会の概要

13：30 主催者あいさつ

13：40～15：00 塩見直紀さん 講演

「茨城県では半農半Xについて初めて話す。八王子市にはかつて半農半士で通常は農業をしながら、戦時は武士の集団があった。農業をしながら医者をしたり、アートをしたりするなどの生活をしてきた人がいる。漁師なら半漁半Xもあり、IT会社が半X半ITで社員募集をして、多くの応募がある。半農半Xと同じような考え方で取り組んでいる人たちに、里山資本主義、コミュニティデザイン、パーマカルチャー、FEC自給圏、合気道（武農一如）の人たちがいる。組み合わせの中に世界を変える魔法がある。今日は、皆さんのアイデアがたくさん生まれる講演、WSとしたい。

私は1965年、京都府綾部市生まれ、兼業農家（米、茶）、祖父は養蚕、父は教員、小学校の同級生は9人、里山の暮らし、3反の田を耕しながら、一人で2000年から半農半X研究所をやっている。綾部市は人口3万人、京都駅から特急で1時間、グンゼの発祥地（女工さんを大事にする）、ものづくりのまち（1部上場2社）、大学卒業後、環境問題に取り組んできた。たどりついたのが半農半Xの考え方。屋久島在住の作家、星さんの半農半著がヒントとなる。半農半Xのコンセプトの特徴は、見た人が完成させる、2次創作ができること。農業は、広くてもベランダ程度でもよく、時間も長短を問わない。2002年に青年帰農について農文協の甲斐編集長に頼まれて原稿を書く。2003年に「半農半Xという生き方」を出版、20～30歳代の若者に多く読まれて、反響があった。半農半Xは理想的な生き方に見えるかもしれないけれど、とても現実的な生き方、島根県が半農半Xを4年前から取り入れてくれる。

台湾で、半農半Xの翻訳本が2006年に出版され、副題に、自然に従順で、天賦を实践する、と書かれる。中国では、環境問題X食品安全との副題、去年は、韓国で出版された。plain living, high thinking ワーズ・ワースに近い考え、現在は、多くの人が、田もつくりしないし、詩もつくりしない、しかし、これからは田も作り、詩も作ろう。これは八代町の標語になる。仏教の自己究明と他者救済、古代ローマでは、パンとサーカス（見世物）が民衆に与えられて、ローマ文明が滅びる。これと反対のことをしようとするのが半農半X。中国人は、成功すると大きな自動車を購入したが、日本では豊かな社会になり、現在は、大きな車より軽自動車のはやる。食は基本で、農業は必須。人には、生

き甲斐が必要。大和言葉の種、た（高く、たくさん）、ね（根っこ、根源）の両方を大事にする。Xの1本は自分、もう1本は社会、それがクロスすることが大事。無縁社会では2本が並行で交わらない。アイデアは組み合わせから生まれる。

トヨタ財団から助成を得て、綾部市内の196自治会の地域資源調査と見える化などに取り組んでいる。自分資源×地域資源、まちづくりを15年行ってきた。先人の知恵Xと若い感性の組み合わせが重要。リスペクト（尊敬）×インスパイア（鼓舞）。古いものと古いものを組み合わせると新しいものが生まれる。成長戦略としての国家ビジョンは1人研究所から生まれる。半農半社会企業家が増えるとよい。稼ぎつつ、家庭を築きつつ、・・・、未来イメージ、分野ABCの3つをきわめる。1人1研究所で関心のあるテーマに皆が取り組むのが良い。1集落に1デザイナーがいると町が良くなる。内村鑑三は、33歳の時、「我々は何をこの世に遺して逝こうか、金か事業か、思想か、・・・」と残す。

15：10～16：30 ワークショップ

講演後、60名余りの参加者の内、3分の1の方が帰られましたが、40名余りが5人ずつ8テーブルに分かれて、席の交代を3回して、90分間のWSを行いました。各自が3分ほどの制限時間内に、自分の長所、住んでいる地域の良いところ、死ぬまでに成し遂げたい夢などを10項目書くように求められ、それをグループ内で1分半の持ち時間で相互に紹介していきました。3つのテーブルでいっしょになった参加者が、どんな人で、何を求めて今回参加したのかがおぼろげながら分かりました。

17：30～21：30頃まで 懇親会

午後4時半で講演会を終了して、農家民宿半兵衛に移り、5時半から9時半頃まで講師を囲んでグリーンツーリズム協議会のスタッフメンバー5人と地元の2人の8人で懇親会を行いました。綾部市には若い移住者が増えて、住まいとなる空き家が不足しているとのこと、空き家だらけの龍ヶ崎市の農村部から見ると羨ましい限りです。生活を大事にして地方住まいを選択する若い人が増加しているのは間違いがないようです。受け入れ先の地域に問題を起こすような移住者かどうか、人を見極めることが大事というアドバイスが、印象に残りました。

■結果

講師の落ち着いた話し方とその人柄により、参加者は講演に集中していた。回収したアンケート結果から、半農半Xというライフスタイルのイメージは参加者に十分に伝わったものと判断できる。ワークショップへの積極的な参加により、それぞれの住む地域の資源に目を向け、参加者それぞれのミッションの片鱗を掴むきっかけとなる講演会となった。

また、講師との懇親会では当準備会の熱意も伝わり、1年後に講師に当準備会の活動実績を見ていただくために龍ヶ崎市に再度足を運んでいただく運びとなった。

※当日資料（レジュメ2枚、ワークショップシート、ローカルビジネスちらし）は別紙。

■当日の写真

